

会越国境 九才坂峠～目指岳～黒森山

12月30日(土)：曇り後雪、風強い

数年振りに西会津タクシーに車を預かってもらい、山に詳しい運転手さんに上安座(地形図では水沢)集落へと運んでもらう。車から見る限り、予想ほど積雪は多くなく、不安を感じざるを得ない。集落の隅で車から降り、支度をして雪に覆われた林道と思しき場所から歩き始めた。ほどなく九才坂峠への登り口を示す小さな道標があり、ここから沢沿いの登山道を登っていくこととなる。なお、九才坂峠とは弘法大師が9歳の時に越えた峠だそうで、入山地点のすぐ近くには弘法岩という岩もある。最初だけは植林帯ということもあり大して沈むこともなくスイスイと進めたが、小さい沢を渡った先で道がどこについているのか分からなくなった。仕方なく適当な斜面を登り、右上上に見える尾根筋に上がろうとするが、傾斜は急だし雪は深い、そのくせ踏み込むと出てくる灌木に足元がどうにも滑る。重荷では突破に難儀しそうなので早々に荷物を置いての空身ラッセルとなってしまい、こんな所から余計に時間を食っていることに不安を感じた。尾根に出てからは深いラッセルはなくなったが、その代わり移動高がやって来る前の吹出しなのか風が強くて、標高500mくらいのこんな場所でも冬山らしい天気指先が冷えて行く。黙々と歩き続け、九才坂峠の少し北で県境稜線に到着した時には結構な吹雪であった。数分南下すると小さな祠と看板のある「九才坂峠」が確認でき、ここから夜鷹山までの空白地帯のことが気にならざるを得ない。

目指岳までは九才坂峠からいったん急な斜面を下る。「遠望する登り返しの尾根は必ず登れそうにない急斜面に見える」の法則通り、遠目にはロープ無しで登れるのか?と弱気にさせられる雰囲気であったが、近づいてみるとそれほどでもなく、スノーシューを履いたままで山頂に到達することが出来た。山頂付近には幹が杉っぽく、葉が松の形状をしたコウヤマキ(高野槇)があった。事前の調べによるとここが高野槇の自生する北限だそうだ。松とも杉ともつかない不思議なビジュアルを眺めたのち、県境尾根上を更に北上開始である。雪の量は思ったよりも多いが、西風で飛ばされるのか藪が埋まりきっておらず、また所々尾根上に段差が出来ていて稜線散歩というわけにはいかない。おまけに移動高はどうなったのか、風雪とガスで見通しが悪く、注意深く現在地を確認しながら歩いても尾根の屈曲部で進むべき方向を見逃したりしてルート間違いをしそうになった。大間違いには至らなかったが、この状況では苦戦が続きそうなので、予定の幕営地よりも手前だが良い場所を求めて行動終了とした。(佐貫記)



目指岳への急登(写真で見ると急)

【日程】

2017年12月30日(土)
～31日(日)

【メンバー】

佐貫(L)、棚橋

【地形図】

安座、徳沢

【記】佐貫、棚橋

12月31日(日)：晴れ



ガスであまり展望がなかった目指岳

ないようだ。今日の夕食に使う予定だった具材も投入した激ウマ朝食で腹を満たし、黒森山に向けて出発する。

幕場の先は北東方面の支尾根であれば顕著だが、県界尾根は派生部が不明瞭である。しかし昨日の内に下降地点を偵察済みなので、コンパスを見ながら躊躇うことなく斜面を下降する。標高差にして100m程下りると県界尾根も細く明瞭となるが、今度は雪庇が発達してくる。それに気を付けながら、更に50m程下った尾根の分岐部もまた不明瞭となる。ここは慎重に地形図で確認し、Co427mの標高点に向かって回り込むように進む。終始「脛深ラッセル」だがこの辺りの植生のバランスが美しく、何だかとても心地良い。



県境稜線は細かい屈曲が多い

最奥部にある消防団の建物の所に着く。ここまで除雪されている上に首尾良く電波も繋がったので間髪を入れずにタクシーを呼び、車を預かって頂いている所へと運んでもらった。そして改めて3月の再戦（続き）を誓い、平成29年年末山行の幕を閉じた。（柵橋記）

県界尾根では夜通し冬山らしい風音がしていたが、我々は東側の支尾根に良い幕場が得られたので、静かな大晦日の朝を迎えることができた。昨晚の内に、元旦～二日にかけて二つ玉低気圧が発達しながら通過するための「悪天候との遭遇」は避けた方が良いと、黒森山より下山することを決めていた。それは我々が慎重派（単に臆病であるだけかも知れないが…）のみならず、ここで切った方が次に繋げ易いという、「一発屋ではない」という習性も大きく起因している。一応朝の天気予報も確認したところ、やはりそれは避けられそうも

磐越道のトンネル出口を眺めた後、黒森山への最後の急登を登り切る。左向きに振り返ると御神楽岳の雄姿が間近に見える。栄太郎新道のある尾根や山伏尾根も手に取るようであるが、一際目を引いたのが水晶尾根である。「水晶尾根を登るのなら是非、会津山岳会の大竹さんと一緒に」と、6シーズン前に単身、若松まで押し掛けたことを思い出す。黒森山は三角点があるので山頂標示もあるに違いないと探したものの見つからず、御神楽岳をバックにセルフタイマーで年賀状写真を撮っておく。

ここからは県境尾根から外れ、熊沢集落から延びている林道の終点を目指す。所々、尾根の形状を成していない箇所もあったが都度、地形図で確認しながら進む。そして無事、予定していた地点に下り立った。ここからだ集落まで1kmにも満たないので、すぐさま林道ラッセルに気持ち切り替える。黙々と歩くと20分程で集落の

【行程】

12/30 水沢集落(7:34)～登山口(7:58)～九才坂峠(7:52/57)～目指岳(12:02)～目指岳先
Co570m 付近 C1(13:30)

12/31 C1(7:48)～黒森山(10:01/21)～林道(11:15)～熊沢集落(11:38)

